

北部伊豆小笠原海域の地球物理学調査

Geophysical features of the north Izu-Ogasawara region

木戸 ゆかり[1]; 川畑 博[2]; 宿野 浩司[1]; 仲 二郎[1]; 谷 健一郎[1]; 石塚 治[3]; 富士原 敏也[4]; 田村 芳彦[1]

Yukari Kido[1]; Hiroshi Kawabata[2]; Hiroshi Shukuno[1]; Jirou Naka[1]; Kenichiro Tani[1]; Osamu Ishizuka[3]; Toshiya Fujiwara[4]; Yoshihiko Tamura[1]

[1] 海洋開発機構・地球内部センター; [2] 独立行政法人海洋研究開発機構; [3] 産総研; [4] 海洋科学技術センター深海研究部

[1] IFREE, JAMSTEC; [2] JAMSTEC; [3] GSJ/AIST; [4] Deep-Sea Res. Dept., JAMSTEC

http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/jamstec_guide/IFREE/index.html

海洋研究開発機構の地球内部変動研究センターでは、地球内部物質循環、プレート挙動解析、試料分析解析データ研究領域の機動的解析研究グループ、海洋底ダイナミクス、そして産業技術総合研究所などとも連携しながら、横断的研究の一つである「島弧の3次元的な発達過程の解明と大陸地殻の成因」を統合的に解釈するために、平成14年からデータサンプルを取得してきた。対象海域は、北部伊豆・小笠原諸島であるが、特に須美寿島、鳥島、背弧域を中心として、深海曳航カメラ、サイドスキャンソナー、ハイパードルフィンによる海底視察、マルチチャンネル/シングルチャンネル反射法システムによる音波探査、シービームによる海底地形、航走中の重磁力調査、そして、岩石採取などを行った。このように調査項目は多岐に渡り、物質科学の観点から岩石試料に対して、薄片作成、熱磁気分析、化学成分分析などを行い、地殻構造解析の観点から広域データのマッピングを行い、個々のカルデラ火山や単独峰のバリエーションが明らかになってきている。今回は、2か所のカルデラと背弧海山についての岩石試料の結果などを紹介する。